

課題情報シート

課題名：	現場監督の業務範囲の相違（ゼネコン及び現場の規模による業務内容の比較検討）		
施設名：	近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	住居環境科
課題の区分：	総合制作実習課題	課題の形態：	調査分析

課題の制作・開発目的

(1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

建築構法、建築施工、生産工学、安全衛生、建築法規、建築施工実習、コンピュータ基礎

(2) 課題に取り組む推奨段階

建築施工実習Ⅱ、建築施工及び生産工学終了後

(3) 課題によって養成する知識、技能・技術

課題を通して、建築生産システム、特にゼネコンの現場管理業務の内容を把握し、建築の施工管理技術者としての能力を習得する。

(4) 課題実習の時間と人数

人数：1名

時間：252時間＋ α

総合建設業の規模（大手ゼネコンから地方ゼネコン）及び現場の規模（1人現場から6人現場）による比較検討を行います。比較内容は業務の総時間、一人一人の業務内容とそれらの業務行う時間帯や所要時間、外注やサブコンに出す業務などを調査し、ゼネコン規模や現場の規模の相違により起こる担当者別業務内容や外注内容、派遣・契約社員業務サブコン業務などを明らかにしました。また、本支社側が考えている現場員の業務範囲と実際に現場で担当している者の業務範囲の比較も行い、違いがある場合においてはその分析も行うことを目的といたしました。

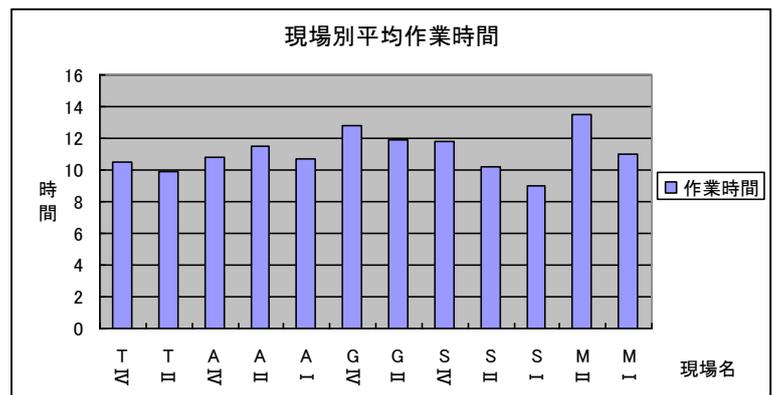
課題の成果概要

今回の課題調査・分析したことから明らかになったことは下記の通りです。

- ◆内 業 外 業：現場での業務は内業、外業それぞれ多様な業務があることが判明しました。業務は均等に行われることはなく、役職の違いにより内業、外業の比率は変わっていき、業務の内容も大きく変わってくることを判明しました。
- ◆業 務 担 当：本支社と現場の業務担当者の考えが反映されている現場、されていない現場とがあります。反映されている現場は数少なく、本支社の考えと現場の考えとは違う場合があります。また、それは本支社の規模、現場の規模

に関係なく、少なからずあることがわかりました。

- ◆平均作業時間：ゼネコンの規模や現場規模の違いにより様々でしたが 9 時間から 13 時間の間に収まる結果になりました。また、規模が小さくなるにつれて、作業時間は短くなる傾向にありました。しかし現場員個人では、ゼネコン、現場の規模に関わらず、人により様々でした。これは小さい現場でも必ず 1 人は配置しなければならないことよると思われます。下図では、同一ゼネコンで規模が小さくなるほど 1 日の作業時間は短くなる傾向が見て取れます。
- ◆1 日の業務：役職の違いにより大きく違う結果が出ました。現場責任者は内業中心で、書類の作成や会議が主な業務になります。中堅になると内業と外業を両方行わなければならないとなり、現場巡視や検査、書類の作成や会議が中心になります。新入社員は外業が主になり、1 日中現場巡視を行います。派遣・契約社員は内業担当者、外業担当者の 2 通りがあり、内業担当者は施工図の作成を主に行い、外業担当者は現場巡視や墨だしなどの補助的業務が主体となります。



課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

当該課題において最も重要なのは、ヒアリングやアンケート調査の内容を固めることにあります。調査分析は何を明らかにしたいのか、それをどのように分析するのか、そのためにどのようなことを聞き出す必要があるのかを明確にすることです。すなわち課題を進めるための計画をきちんとすることにあります。学生が現業の内容を十分に把握できていることはありません。よって、文献からの予備知識を備えさせ、これにアドバイスを与えながらその知識を膨らませる必要があります。現場に出向き半日ほど現場監督の業務を後ろから見ながら、学生に今何をやっているのかを説明し、文献から得た知識を現実と合致させました。その上で、はっきりさせたい内容を明確にし、ヒアリングとアンケート調査用紙を作成し、予備調査として一現場に出向き、現業の工事部長、作業所主任、係員から調査用紙へのアドバイスをもらっています。この上で調査用紙を完成させ、ヒアリング及びアンケート調査を実施しました。この時点で学生に期待していた能力アップや技術・知識の習得は完了したとも

言えます。

調査の内容を十分に吟味し、その内容を把握してから目的を明確にすることで、学生が自ら文献や直接現場で知識を得ていく姿勢ができ、またその方法を会得していく。実社会で最も必要な能力がこの時点で付加できると考えます。続けて、現業の社会人にヒアリングを行うことにより、アポイントの取り方から視察の仕方、話し方などコミュニケーション能力が高まると共に、建築生産業務内容も深く知ることができ、就職後スムーズに現業で活躍できるようになると考えます。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
○ 建築生産組織に関わる知識を学びます。 ○ 建設現場運営に関わる知識を学びます。	◇ 実現場に対する学生自身が持つ疑問点、不明点を明らかにさせていきます。 ◇ 実現場にヒアリングに行くことによって社会人としての素養を身に付けさせます。	● ヒアリング対象企業への事前連絡が必要です。 ● ヒアリング時における学生の基礎能力の向上とコミュニケーション能力の開発を目指します。

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 近畿職業能力開発大学校附属滋賀職業能力開発短期大学校
住所 : 〒523-8510
滋賀県近江八幡市古川町 1414
電話番号 : 0748-31-2250
施設 Web アドレス : <http://www.ehdo.go.jp/shiga/shiga-pc/index.html>